

Whose is that?

誰のですか

It is mine.

私のです

ころんぶすの卵

牧羊譯

亞米利加といふ國は、皆さん御存知の通り、歐羅巴の各國から比べると、極新しい國で、今から凡そ四百年程前、ころんぶすの發見した國であります。其のころんぶすが、此國を發見するに付いて、どの位辛苦艱難を嘗めたかといふ事も、皆さんは歴史だの讀本だので、お讀みになつたらうし、又兄さんや姉さんから、お聞きになりましたでしょ。夫に付いて、こゝにころんぶすの卵と

いふ面白のお話があるのを御話致しましよ。さて、彼のころんぶすが、何でも 歐羅巴の反對の側に人の知らない大陸のあることを信じて當時の學者だの貴族だの其他國民残らずが反對したり、嘲弄したり、冷かしたりしたのも願みないで、船出をして、海の上でも種々な辛苦艱難に出遭つたが、とうとう一切の困難に打ち勝つて目出度、本意を達して歸國した時に、西班牙國の大僧正で、めんどつわと申す人が、ころんぶすの爲に、お祝をしやうといふので、其國の貴族だの、名高い學者だのを残らず招待して、大宴會を開きましたやがて、皆集まつて、宴會が始まつた時分に、僧正は眞中に立つて、今度ころんぶすがなした所の大發見といふものは、これまで、一人でやつた事業の中で、一番大きな功績である、此功績といふ

ものは、世界の續く限り何時までも消滅することの出来ない立派なものであるといつて、盛にころんぶすを賞讃しました。

所が此賞讃の演説が、ひどく其席に集つた貴族たちの機嫌にさはりました。「何んだ、ころんぶすなんて、位も身分も有たない、謂は浪人じやないかこんな浪人風情に向つて、今の僧正の演説はどうだ」といふ様な、申さば嫉妬の考が、言ひ合はしはせないが、残らず貴族たちの腹の中に起りました。そこで、とう／＼一人の貴族が、口を開いて「我輩の考では、所謂新世界への航路を發見するのは、夫程困難じやなからふと思ふのだ、太平洋は廣々と見渡す所に廣がつて居るじやありませんか、して見れば、西班牙の水夫どもは、誰だつて航路に迷ふといふ様なことはありやしないさ」

すると、今迄は黙つて居つた連中が、此言葉を聞くと同時にさも心地よさ相な大聲で、一度に「ワハハハ、ハ、ハ」と笑ひ出して「無論そ、さ、誰だつて知つて居るさ」と叫んだ。

ころんぶすは、始から何もいはずに、聞いて居ましたが、此時靜かに口を開いて

「前程の大僧正の賞讃は、とても私の當る所ではありません。私はたゞ上帝の導きに由つて得た丈のことで、世界中の人は誰でも、上帝の助さへ得たらば出来る丈の事をしたまでゞあります。」
 といひながら、食卓の上にあつた一個の卵を取り上げて、前に口を開いた貴族の一人に向つて、
 「時に閣下、閣下は、此卵を倒れない様に縦に真直にお立て遊ばすことが出来るか」
 と尋ねたので、其貴族は直に卵を取つて、上下種

をやって見たが、どうしても立たぬ。そこで其隣りに座つて居た貴族も、「どれ我輩が」といつて、やつて見たが、矢張立ち相にない、すると周圍から、僕が、我輩がといつて、澤山よつて来て皆思ひくりに試して見たが、どうにも立ちつこなしなので、其中の一人が、

「こりや、駄目だ、どうしたつて出来やしない、諸君はそんな出来ないことに骨を折つて居る」と言つて、とう／＼皆手を引きました。

そこで、ころんぶすが申しました。「然し、諸君はすぐ後では「無論そーさ、誰だつて知つて居るぞ」とかいひなさるに違ありません」と、こう申して、其卵を取つて、コッソリと軟く食卓の角でたいて、卵の尖端を少し凹し、さて其凹んだ所を下にして、食卓の上に立てました所が、前の貴族は

「は、い、そーか、それなら誰だつて知つて居るさ」と申しました。
 此事があつてから、人のした發明を見て、何でもない様に云ふ事を、「ころんぶすの卵」と申す様になりました。

